

令和元年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第2回）

日 時	令和元年8月7日（水） 13時00分～15時30分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出席者	委員 (19人)	森会長、今村委員、高島委員、鴻野委員、吉原委員、藤田委員、淀野委員、崎野委員、大西委員、田澤委員、清藤委員、高橋委員、鈴木委員、米沢委員、斎藤委員、福士委員、一戸委員、成田委員、外崎委員	
	事務局 (7人)	企画部長、企画課長、企画課長補佐、企画課総括主幹、企画課主査、企画課主査、企画課主事	
	その他		

会 議 概 要

1 開会

2 議事

(1) 地方創生交付金関係事業の評価について

①弘前版生涯活躍のまち推進事業について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

- ・指標1の移住者数22名の内訳を教えてください。

⇒関東地方から11人、北海道から5人、東北から3人、大阪から1人、長野から2人である。年代的には、50代7人、60代8人、70代3人、80代3人、90代1人である。

- ・指標2のボランティア参加者数とは、どういったボランティアなのか。

⇒これまでの成果の中でアクティブシニアの活躍の場づくりを目的としたイベントを開催しており、子どもたちを対象とした夏休みや冬休みの居場所づくりでボランティアをしたり、移住者と地域のアクティブシニアと一緒にスポーツや工作を行ったりした時の講師をしていただいた方々である。平成30年度の実績は37人だが、その内訳は移住者が13人、地域の方が24人である。

- ・指標1の移住者数のうち、要介護認定を受けている方はいたのか。

⇒その点は確認していない。しかし、本事業はサービス付高齢者住宅に入居してもらうという取組であるので、要介護度が高い方ではないと認識している。地域に来て、地域の人たちと一緒に活動したいという方やUターンの方が多いと認識している。

・指標1の移住者数は、実際移住した（引っ越してきた）方を純粋にカウントしただけか。

⇒実際に移住した方をカウントしている。ちなみに、移住者の職業は、無職の方が14人、農業従事者が4人、その他IT関係等を起業した方などが4人である。

・サービス付高齢者住宅であるが、料金が高いので対象者が絞られるのではないのか。会社によっては人を選んで移住させるのではないかという心配がある。

⇒例えば、ある高齢者住宅に入居されている方は全て地方の方で、首都圏から移住されて入居している方はいない。お試しハウスに来ていて、何年後かに移住したいという方はいる。

・指標3の市の移住サポートセンターで受け付けた50歳以上の相談者数は、相談の件数なのか、それとも人数なのか。

⇒相談を受けた人数である。内訳は、関東が95人、東北が9人、関西8人、東海7人、北信越2人、不明10人である。

・本事業は、地域おこし協力隊とは違うのか。

⇒地域おこし協力隊は、本事業と別の制度である。

## ②都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

・指標3のシングルマザー応援会社での就労者数について、これまでの成果に課題があったと記載してあるが、具体的にはなにか。

⇒シングルマザーを募集したが、あまり集まらなかったというのが課題と聞いている。

・実績額約4,300万円に対して、そのうち約半分の2,142万円が就農体験受入に費やしているが、就農体験受入者数の実績は61人であり、この金額は妥当だという判断をしているのか。61人ではこれほどの金額はかからないのではないか。

⇒就農体験受入の事業は、大阪府泉佐野市のNPO法人に委託し事業展開しており、無業者等を募集して希望者に来てもらい就農体験させる事業である。61名就農体験をしたが、補助労働力としての事業効果等はあったものの移住にはつながっていないため、大きな課題であると認識している。これまでは、2泊3日であったが、今年度から一か月の長期プログラムを用意して移住につなげたいと考えている。

・(上記について)費用対効果はどのように考えているのか。  
⇒費用対効果についても課題があると認識している。成果を上げていかななくては  
いけないと考えている。

・2,142万円という費用は、泉佐野市のNPO法人からの請求金額だったのか。  
⇒法人への委託額である。この事業は石川県加賀市とも連携しており、移動費用や滞  
在中の宿泊経費等で事業費がかさんでおり、実績に対する費用対効果の部分では  
課題があると認識している。今後は、研修だけではなく移住、就農につなげるとと  
もに、より近郊の地域との連携も検討していきたい。

・2,142万円のうち、固定経費の部分と61名に対して実際にかかった費用の内  
訳はどうか。固定経費がほとんどで、就農体験に何人参加しても実際に係る費  
用があまり変わらないのであれば意味がない。経費の内訳と費用対効果に対して  
今年度どう取り組むのかについて説明をお願いしたい。  
⇒手元に経費内訳の資料がないため、次回準備して説明したい。

・事業を評価する際、費用がかかっても効果があった・なかったという基準があり、  
それぞれの委員が各事業に対して評価の尺度が異なると思う。事業1つ1つに対  
して、統一した評価を行うとなると非常に難しい議論だと思うが、事務局ではどの  
ように考えるか。  
⇒地方創生事業の取組・評価については、市議会等でも費用対効果という部分に関し  
て意見をいただいている。しかしながら、実際に要した費用で実績を評価するとい  
うのは困難な部分でもある。例えば、シングルマザーの支援や生活困窮者就労支援  
等はすぐに成果につながらない分野であり、評価については各事業で考える必要  
がある。個別にご意見いただいた分野に対しては、費用対効果を示すので審議して  
いただきたい。

・シングルマザー応援会社とはどこか。  
⇒NPO法人マザーフィールドが募集している企業であり、商工会議所の会員は5  
万円、非会員は3万円の協賛金を集めて活動している。個別の企業名や活動内容に  
ついては、ホームページで確認してほしい。

### ③ひろさきライフ・イノベーション推進事業について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

・【意見のみ】この事業についても費用対効果を示すべきである。科学的な分野の事

業なのですぐ結果につながる分野ではないことは理解するが、何年後の何を目標にするのかなどを具体的に示して評価し、漫然と予算を執行しないようにしてほしい。

- ・事業の具体的（詳細）な中身について説明をお願いしたい。

⇒ロボットスーツHALという筋ジストロフィーなど難病患者に対してのリハビリ機器だが、市で導入支援し、青森県内で初めて弘前大学医学部附属病院に導入されている。この機器を使い、リハビリ体制を強化していきたいと考えている。現在、難病患者だけが医療適用している機器だが、脳梗塞、心疾患の患者にも対応が広がっていくものであり、今後も取組を進めていく事業である。

また、指標2の弘前大学COI（弘前大学センターオブイノベーション）参画企業と地元企業の連携による研究・開発件数に関して、岩木地区約1,500人を対象とした健診データを集めた取組を行っているが、これまで15年継続しており、一人当たり2000項目のデータが蓄積されている。このデータを基に中央の企業が分析して様々な取組を行い、製品開発している。市としては、健診データ収集に協力し、地元事業者と中央の企業のマッチングという部分で連携を進める取組を行っているところである。大きな取組については以上である。

- ・指標1の再生医療設備や先端リハビリ等の導入件数についての導入実績が6件、指標3の先端リハビリ等により身体機能が改善された件数の実績が41件とあるが、指標1の6件は指標3の41件に含まれているのか。

⇒指標1は病院や施設に設備等が導入された件数である。指標3は、設備等が導入された病院を実際に患者が利用し、身体機能が改善された件数である。

#### ④ひろさきりんご産業イノベーション推進事業について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

- ・りんごイノベーションセミナーでアンケートをとっているようだが、生産者の出席が冬場なのに少ない。実際現場の方がどのくらい参加しているのか。セミナーでAI等先端技術の紹介があったが、雪国には合わないし、内容が高度すぎるのではないかという意見があった。事業を委託していると思うが、雪国とマッチングしているか、現場で活かされる内容であるか等をチェックして委託しているのか。

⇒イノベーションセミナー参加者は、生産者、関係者含めた計142人であるが、内訳を調査して次回回答する。セミナーの内容だがアシストスーツ、モニタリング装置の参加業者が八戸、山形、岩手等であり、必ずしも雪国ではないので、雪国に即した内容であったのか詳細を確認して次回回答したい。補足であるが、多くの生産者にセミナーへ参加をしていただきたく、第1回は土日であったが、第2回は平日

に開催してりんご協会にも協力をお願いしていた。今回はもっと周知を工夫し、参加者を増やしたい。AIシステムの雪国への対応だが、委託業者と市農協が現場に入って、一緒に動いてもらっている。データ収集、成果品を生産者にも見ていただくとともに意見をいただきながら、雪国に対応した構築を進めている。

⑤地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業について  
○事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

⑥弘前さくらまつり賑わい創出事業について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

・展示した100鉢のさくらの鉢はどのくらいの大きさなのか。またどこに展示したのか。

⇒参考資料として配布した資料内に実物の写真を添付している。展示場所は、追手門・東門・北門・下乗橋付近・本丸の園内5箇所に展示した。

・文字だけで見てもイメージしにくいので、写真や具体的な内容で示してほしい。

⇒今後改善して説明することとする。

・設置場所は写真映えや景観を考えて配置しているのか。

⇒公園緑地課職員等が配置しているが、例えば、土塁側のさくらがないところに配置することによって花のボリュームが多く見えるような形にしている。

・本丸の岩木山が見える写真スポットに配置していたのか。

⇒鉢植えの高さの関係もあり、配置していない。本丸であれば園路に沿って配置していた。

・全体的にばらけさせて配置することも手段の1つではあると思うが、園内の桜が散ってきてからの写真映え等を考えると、鉢を集中的に展示して見栄えをよくするという方法も考えた方がよいのではないか。

⇒鉢植えは200基作成したが、花芽がついたもの100基しか飾れなかった。花のボリュームも少なかったのでボリュームがでてきたら飾り方等を検討して配置したい。

(2) 総合計画リーディングプロジェクトの評価の進め方及び内容について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

- ・リーディングプロジェクト評価シート毎のページではなく、通しのページを付けた方が、説明を受けやすいし見やすい。

⇒今後は通しのページに改善して対応する。

- ・リーディングプロジェクト「安心できる医療体制と健康長寿の推進」に子育て世代包括支援センターの事業があるが、地域包括支援センターも存在するため、相談者にとって「包括支援センター」という名称が紛らわしいのではないかと。

⇒以前にも名称が似ているなど名称に関する議論があったが、他県の事例等も調査し、国が進めている名称に決定した経緯がある。

- ・正式名称は「〇〇包括支援センター」で問題ないと思うが、相談者が分かりやすい名称を一般名にした方がいいのではないかと。名称が紛らわしく、相談件数が増えないといった可能性が考えられる。また、高齢者向けの包括支援センターに相談があったが内容は子育てであった等といった事例も考えられるため、分野横断的にワンストップで対応できる仕組みを検討してほしい。

⇒現状では、子育てと高齢者の分野では横断的な対応ができていない。しかしながら、子育ての分野では、母子手帳の交付を当該センターに一本化し、保育サービスの情報も子育ての相談等も子育て世代包括支援センターへ集中させる体制ができた。子育ての分野から福祉の分野への横断的な取組については、今後検討していきたい。

- ・センターに相談するような問題を抱えている人は子育てと介護の両面であったりするケースもあるので、子育てから介護への分野横断的な流れの体制づくりをお願いしたい。

⇒市で情報共有して体制を整えたい。

- ・リーディングプロジェクト「安心できる医療体制と健康長寿の推進」の「高齢者ふれあい居場所づくり事業」について、高齢者ふれあいの居場所登録とは、登録してその地域の高齢者を対象にしているのか。

⇒地域の高齢者を対象としている。個人宅を含む様々な名称・開催場所で登録されている。

- ・地域によって内容が違うのか。

⇒地域によって様々な内容で活動している。

・まちづくり1%システムの審査員をしているが、申請事業の中に本事業と同様のものが多くある。1%システムの事業では、地域にとらわれず地域を超えた枠組みの取組となっている。「高齢者ふれあい居場所づくり事業」についても、地域のみを対象とするのではなく、地域を超えた枠組みを認めることが必要なのではないか。  
⇒基本的には、地域の方を対象としているが、地域外だからといって排除する事業ではない。地域の方のつながりを作る場として整備しているものの、その他の人も自由に入れる環境である。

・高齢者ふれあい居場所が31か所も登録されているのに、なぜ1%システムに対して事業を持ってくるのか、どこに問題があるのか、内容に不備があるのか疑問である。

⇒行政としては、地域のコミュニティ、仲間同士のコミュニティ、両方大事だと思う。高齢者ふれあい居場所づくりについては、地域のコミュニティとして支援していくもので、仲間同士のコミュニティは1%システム等で支援していくというスタンスは変わらないので、両面で取り組んでいく。

・8月20日まで提出の本評価に対する意見照会だが、指標の設定が間違っているのではないか、というところまで意見を言ってもいいのか。取組内容と成果指標の設定が適切な関係にないものがあるように感じる。

⇒今回、意見照会している部分は、リーディングプロジェクトという分野横断的な取組に対するものであり、全ての取組に関して、個別の指標が設定されていないので、取組と指標に若干のズレが生じている部分も確かに存在する。来年度からは個別の政策に対する指標全てを評価してもらうことになっており、そちらには個別の取組に対する指標が設定されている。今回は、リーディングプロジェクトの部分のみ意見照会を依頼しているが、疑問に思ったことは質問を提出してほしい。

・リーディングプロジェクト「誰もがいきいきと活動できる快適なまちづくり」の「ほのぼのコミュニティ21推進事業」について、ほのぼの交流協力員は、民生委員と兼務している方はいるのか。

⇒現在、ほのぼの交流協力員は592名登録されているが、民生委員を兼ねている方もいる。何人が兼ねている方はわからないが、兼務されている方は、高齢者の見守り活動と民生委員の仕事を同時にやっているのが現状である。

⇒兼務の方がどのくらいいるのか次回までに調査しておく。

・【意見】 予算面で考えると、ほのぼの交流協力員と民生委員で二重に予算をかけているのではないかという違和感がある。民生委員という役割とコミュニティ委員

の役割を混合している人もいるのではないか。それぞれで役割が違うので、混同している場合、「ほのぼのコミュニティ21推進事業」の評価として、民生委員の部分は分けて考えなければならないと思う。

- ・リーディングプロジェクト「地域を担うひとづくり」の「吉野町緑地周辺整備事業」について、非常に予算が大きい事業内容が書かれていない。予算額が大きいので、事業内容について確認したいが、資料等をお願いしてもよいか。

⇒総合計画には具体的な事業内容に関する記載はない。したがって、委員から資料要請があれば、担当課から資料等は集めて提供することはできる。

- ・今年度予算が約19億円なので、事業内容に関する資料がほしい。

⇒次回までに準備したい。

- ・「吉野町緑地周辺整備事業」の件は、新聞等で十分報道されている。美術館の建物と周辺の整備費、美術品その他の購入費、製作費などであるので、19億円の予算額でも少ないと思う。十分報道されている内容であるので細かい資料は必要ないと思う。

⇒総合計画審議会の委員の皆様からいただいた個別事業に関する意見や審議は、担当課へつないで対応する。また、個別事業に関して資料要請があったものに対しては対応する。一方で、委員の皆様からは、計画全体の進行管理に関する部分でご意見をいただきたいとも考えている。例えば、「ひとづくり」に関する分野では、～～という取組が必要ではないか、などのご意見をいただきたい。

### 3 閉会